

赤星

月刊

1月2003年 No.21 (通巻363号)

本号400円(毎月1日発行)
年間購読料 1部3000円(送料別)
(送料) 密封1000円 開封800円

THE SEKISEI (RED STAR/ROTE STERN)

編集 共産主義者同盟 (DER BUND DER KOMMUNISTEN)

発行所 蜂起社 東京都江東区大島3-9-25/TEL 03-5626-8262
(関西支社)大阪市北区菅栄町10-10 岸本ビル/TEL 06-6357-6975
発行人 南 安明 <振替> 00120-2-1512 蜂起社・南安明

紙面案内

- ① ~ ③ 2003年年頭論文
- ④ パレスチナ連帯
- ⑤ 韓国民主労総/チョムスキー
- ⑥ 山谷を反失業・反排除の砦に
- ⑦ 三里塚・反対同盟年頭アピール
- ⑧ 反戦闘争/沖縄/反彈圧

プロレタリア解放闘争＝ 共産主義運動の旗手たれ

希望の砦を築こう！



共産主義者同盟 中央委員会



2003年 年頭に際して

はじめに

21世紀に入った今日にあっても、世界は依然として戦争の脅威、資本の暴力にさらされ、帝国主義・多国籍独占資本の支配・グローバリゼーションによって、パレスチナ人民は、イラクと国の南北格差、各国内部での貧富の格差は拡大し、不平等も大きくなる中で、多くの人々が貧困と失業に苦しんでいる。

だが、失うものない持たざる者たち、社会から排除された人々は、搾取と抑圧にあえきながら全世界で怒りの反撃に転じた。

怒りの反撃に転じた。たゞ、失うものない持たざる者たち、社会から排除された人々は、搾取と抑圧にあえきながら全世界で怒りの反撃に転じた。

怒りの反撃に転じた。たゞ、失うものない持たざる者たち、社会から排除された人々は、搾取と抑圧にあえきながら全世界で怒りの反撃に転じた。

「ドクトリン」の下に世界秩序を再編成しようとして、米帝主導の「反テロ戦争」、すなわち「ブッシュ・ドクトリン」の下で、イラク人民は、石油目当ての侵略戦争の脅威にさらされ、パレスチナ人民は、イスラエルによる軍事占領と迫害にあえいでいる。パレスチナ問題は、ダブル・スタンダード(二重基準)が際立つこの米帝の中東政策の正元(もと)に深く突き刺さった「トゲ」と言える。

だが、イラク攻撃反対/パレスチナに自由を、と訴える反戦集会やデモが、60年代・70年代のベトナム反戦運動以来の規模で、欧州を越えて連帯し共に闘う「新しい労働運動・社会運動・国際連帯運動」のうねりを創り出すことである。

「新しい労働運動・社会運動・国際連帯運動」のうねりを創り出すことである。搾取・抑圧・貧困・失業などにあえく労働者人民ほど、このような胸を熱くさせ、新たな希望が湧いてくる闘い・団結を心から求めている。世界中にあるラディカルな闘いの担い手(ミリアント)たちの連帯——「新しい国際主義」の闘い——こそが、必ずやプロレタリアートの心を奮い立たせ「団結して闘う」ことに希望を持たせられるだろう。

「疑似社会主義」・旧体制(アンシャン・レジーム)の崩壊を、スターリン主義の歪みから明確に訣別した共産主義運動の再生へ、「反転への契機(モーメント)」に仕舞いかどうか。また帝国主義・多国籍独占資本のグローバリゼーションの席巻と、「01年9・11米同時テロ事件」以降、

「反テロ戦争」を推進することによって、「先制攻撃」も辞さないとする新国家安全保障戦略(ブッシュ

「反テロ戦争」を推進することによって、「先制攻撃」も辞さないとする新国家安全保障戦略(ブッシュ

反グローバリズムを!



02年11・10米軍による少女轢殺糾弾の集会 (ソウル・大学路)



02年11・10韓国民主労総主催の全国労働者大会 (ソウル・大学路)

新しい労働運動・社会運動・国際連帯運動を! BUND再建の礎を築く「赤い星」たれ!

イラク攻撃許すな
有事法制阻止!

2003年の年頭に際して、我々が第一に訴えたいことは、「反テロ戦争」を主導し世界秩序の再編成を進めている米帝・ブッシュ政権による石油目当ての対イラク攻撃・侵略戦争を阻止する反戦闘争、そして、日帝の改憲へのステップ、参戦国化の総仕上げとしてある有事法制阻止の闘い、この焦点の政治闘争に全力で立ち上がるべきである。

そのためには、今日、与野党を問わず疑念まみれ利権まみれで腐り切った「議会政治」にきっぱりと見切りをつけて幻想を断ち、労働者が人民が革命的大衆行動に立ち上がらなければならない。

反グローバリズムの新しい国際主義の旗を掲げ、国際連帯運動と反戦闘争を運動させた大衆運動の前進を切り拓いていくこと、この闘いの意義が、この国の政治と現代世界をラディカルに変革しようというところを訴えたい。

深刻の度を増すばかりの失業問題には目もくれず、沖縄民衆に基地の重圧を背負わせ続け、労働者人民に犠牲を強いながら、有事法制から改憲へと参戦国化の道に突き進んでいる小泉政権は、労働者人民の怒りを結果として打倒する以外はない。

第2には、パレスチナ民衆との国境を越えた連帯を「新しい国際主義の闘い」として国際連帯運動を前進させていくことである。

02年カナダでのG8サミットで明らかになったように、「9・11テロ事件」後

の世界秩序を米帝が「反テロ戦争」を主導することで再編成しようとしている動向の下で、この国際情勢の最大の焦点に、中東情勢・パレスチナ問題が浮上してきたことに、我々は注意を喚起しなければならない。

いまやパレスチナ問題は、米帝・ブッシュ政権にとって戦略資源である石油の確保を至上命題とした中東政策の原点に深く突き刺さったいわば「トゲ」に他ならないのだ。

パレスチナ民衆の抵抗運動には、「9・11以降、正義をかざした「反テロ戦争」の欺瞞性を照らし出す「一つの極」としての役割を」と、さらには、抑圧と貧困からの解放を求める世界中の民衆の闘い、「持たざる者たち」「排除された人々」の闘いを象徴するシンボリックな存在としての「最後の抵抗の岩」「希望の岩」としての役割を与えられていると言えよう。

我々は、昨年6月、再占領に苦しむ怒れるパレスチナの地を訪問し、様々なNGO(民間活動団体)や諸抵抗勢力と交流してきた。また、インティファダ2周年を迎えた9月28日から約1週間わたって、パレスチナからライラ・ハリドさんを迎え、山谷、沖縄など全国各地で約1千名の参加者によってパレスチナ連帯集会を開催した。これを「新たな一歩」として日本・パレスチナの草の根の交流・連帯運動を前進させていくこと。

第3には、一昨年に結成された反戦闘争実行委員の闘いの意義を確認し、この反帝・国際主義の政治勢力に

よるこの国の新しい左翼運動を前進させていくことである。同時に、共産主義運動の再生のために、共産同盟(フロント)再建の礎を築くことに精力を傾注し、その希望の「赤い星」となることである。

今日の思想・政治状況にあって、我々は、何よりも帝国主義の暴力・搾取・抑圧と闘うこと、すなわち反帝・国際主義と反グローバリズムの立場を鮮明にしてこそ、グローバリゼーションによる貧困と失業にたいする全世界の労働者人民の闘い、シオニストから首領のシャロンが、イスラエル国民・シオニストから「テロと闘う指導者」として喝采を浴びる一方で、イスラエル建国史上かつてなかったことに、青年たちの中からたとえ少数であれ兵役・軍務を拒否する者が現れ出していることも、シオニズムの排外主義的建国理念が兵役という根幹から揺らぎ始めていることを示しており、いかに米国が後ろ盾となって強大な軍事力をもってしてもパレスチナ民衆の抵抗運動は押し潰せないであろうことである。

「9・11テロ事件」以後、「反テロ戦争(テロとの戦い)」を推進する米帝主導の下に帝国主義世界秩序の再編成が急速に進められている情勢にあって、石油目当てのイラク攻撃が準備されている一方、パレスチナ民衆のイスラエルの占領に対する抵抗運動が、「反テロ戦争」の欺瞞性を照らし出している。

「石油のために血を流すな」とイラク攻撃に反対する反戦運動が、世界的規模でまたベトナム反戦運動以来の規模で大きなうねりを見せている中で、「パレスチナに自由を!」というスロガンも当たり前のようになり、とりわけ反グローバリズム運動や国際連帯運動の担い手たち(ミリタント)にとって一呼ばれている。それは、パレスチナ問題が、「ダブル・スタンダード(二重基準)」に貫かれた米の中東政策の矛盾を暴き出しているからでもある。

こうした「イラク攻撃反対」「パレスチナに自由を!」を掲げ、国際連帯で反戦運動を前進させていくとする時、一時期叫ばれていた「テロにも戦争にも反対」なる主張は、国際的にも政治的にもその有効性をすっかり失ってしまったばかりか、思想的な破綻をもさらけ出してしまったと言えよう。

「テロ」という言葉で事態を語ることはそのものが、いさゝかの道理を押し潰す国家的暴力の無法に道を開くのだということを知らなければならぬ」と指摘する西谷修は、「テロとの戦争」とは何か「9・11以後の世界」(以文社)で、パレスチナ問題に言及した「イスラエルによる『テロとの戦争』」の中で次のように述べている。(註)

「九月十一日以来……シャロンは、我意を得たりとパレスチナへの軍事圧力を強め、わざわざ『自爆テロ』を挑発して、それを口実にパレスチナ人の生活空間である自治区を爆撃し、ミサイルを撃ち込み、戦車を送り込んで、人びとを引きづりだした。家屋を破壊し、『テロリスト狩り』と称して殺戮をほしむままに、無力な人びとを恐怖

国際連帯で 反戦闘争を

イスラエルの軍事占領下で「パルトヘイト」に等しい凄まじい迫害と抑圧にさらされ屈辱に心をかきまわらねながらも、パレスチナ民衆は、絶望を怒りに変え、人間としての尊厳をかけてインティファダ(占領に抵抗する民衆の蜂

起)に立ち上がっている。イスラエルの圧倒的な軍事力を前にしても、奪われた自決権を取り戻すためにひるまずに闘うパレスチナ民衆のこの底力と不屈の意志こそが、侵略者・抑圧者であるイスラエルを追い詰める、軍事力による解決・戦争政策への厭戦意識をもたらしめている。

98年の「オスロ合意」によるパレスチナ暫定自治を反古にし再占領してパレスチナ人を毎日殺害している首相のシャロンが、イスラエル国民・シオニストから「テロと闘う指導者」として喝采を浴びる一方で、イスラエル建国史上かつてなかったことに、青年たちの中からたとえ少数であれ兵役・軍務を拒否する者が現れ出していることも、シオニズムの排外主義的建国理念が兵役という根幹から揺らぎ始めていることを示しており、いかに米国が後ろ盾となって強大な軍事力をもってしてもパレスチナ民衆の抵抗運動は押し潰せないであろうことである。

カルな連帯つくるう!



破壊されたトゥルカレムの小学校に描かれた壁画



イスラエル軍の侵攻によって破壊されたジェニンの街

新たな国際主義の砦 占領に抵抗するパレスチナ民衆との国際連帯

パレスチナに自由を! Free Palestina!

イスラエルの占領に抵抗するパレスチナ民衆が、心の底から望んでいることは、真の「平和」であり、民族自決の政治的権利(民族自決権)の回復である。それを妨げているのは、国際連帯に待たず無視してパ

レスチナを占領し続けているイスラエルであり、その後ろ盾となっている米国の他ならない。イスラエルの首相シヤロンは00年9月28日、兵士を引き連れてエルサレムにあるイスラム教聖地アルアク

サ・モスクへ挑発を意図した訪問を強行することによって、パレスチナ民衆の怒りに再び火を付け、この日を起点に第2次インティファダ(占領に抵抗する民衆の蜂起)が始まった。パレスチナ民衆の尊厳を蹂躪するようことをやっておいて、怒りに火が点くと「テロ根絶」を名目に「報復」を加える。その意味で、イスラエルのやっていることは、「マッチ・ポンプ」といって他はない。

撤退を求める国際連帯が何度か挙がっても従わず、国際法にも背く違法行爲を繰り返しながら、「自衛」のためと称してパレスチナ人の抵抗を「暴力的であれ非暴力であれ」圧倒的な軍事力で押し潰そうとしているのがイスラエルだ。

「自分たち(イスラエル)の安全保障を確保するためには、他者(パレスチナ)の自由と権利を奪うてもかまわない」というシオニズムの考え方を、はたして容認できるだろうか。シヤロン政権は、「01年9・11事件」以降、米国主導による「反テロ戦争」に乗る形で、「テロリストの一掃」を名目にパレスチナ民衆の抵抗運動を押し潰し侵略と占領を正当化しようとしている。我々は、イスラエルの占領に抵抗するパレスチナ民衆の声を、

「反テロ」の掛け声(プロパガンダ)によってかき消させてはならない。イスラエルとパレスチナの「暴力の連鎖(連鎖)」をたたき壊すだけで、米国の拒否権発動に見えぬふりをして、パレスチナの人々の窮状を傍観してきた(私たちが含む)国際社会の無関心こそが、イスラエルの占領と抑圧を許してきたのではないか、「世界の無知こそがパレスチナ人の絶望を生み出す」(白樺陽)のではないか、と問うべきである。自分たち・国際社会が、パレスチナ問題に関し

ていかに重大な責任があるか、ということを知らなければならない。言い換えれば傍観者の無責任(知的な怠惰)を問いつけてきたことを捉え返すことを迫られているのである。国際社会がパレスチナ問題に無関心で傍観している限り、イスラエルの凄まじい迫害にさらされているパレスチナの人々は殺され続け、「恐怖と絶望と怒りと憎悪のうちに窒息させ」(西谷修)られることになる。「パレスチナ民族解放闘争の義勇軍であった日本赤軍のメンバーとして」30年近くパレスチナ解放勢力と共闘してきた足立正生氏は、パレスチナ問題に関して「一般的には、ユダヤ人問題という近代欧州の未解決問題を含み、宗教的要素も含まれていて、いかに複雑で難しい問題のようにされているが、本当にそうだろうか。私は、そうとは考えない。極めてシンプルな問題だと考えている。つまり、パレスチナ問題は、土着のアラブ・パレスチナ人たちが「イスラエル」と言う占領者に対して闘っている抵抗闘争でしかない、と考える」(「情況」02年12月号)。「PLOの闘い」パレスチナ解放闘争の史的過程「足立正生」と述べている。

「オロークの木が泣いている」という言葉に、平和を希求するパレスチナの人たちの心の叫びとそれを踏みにじっているイスラエルの占領に対する憤りが込められ叙情詩のように表現されている。

一方、鶴岡哲氏が指摘するように、「9・11」が起きた01年から、パレスチナに身を運び一歩を踏み出す人が、「世界のあらゆる国から、急速に増え始め」ている。(『パレスチナ国際

市民派遣団・議長府防衛戦日記」シエゼ・ボヴェ、太田出版 解説) 世界中からパレスチナ現地に駆けつけ、「フリー・パレスティーン」「ノー・アパルトヘイト」と呼び、「国際義勇軍」のようにパレスチナの人々と連帯しイスラエルの占領政策を止めようと活動する人々、NGO(民間活動団体)が増え国際連帯のネットワークを生み出している。

欧州を中心に反グローバリズムの旗を掲げ「新しい国際主義」を実践している人々、メキシコの先住民武装組織・サパティスタや移民・失業者・ホームレスなど「排除された人々」との連帯運動に取り組んでいる人々、そして99年WTOに異を唱えたいわゆる「シートルの人々」等、反グローバリズム運動、国際連帯運動を担うミリアント(闘士)にとって、いまや「パレスチナに自由を!」が、闘いの合言葉にさえなっている。イラク攻撃に反対する全世界の反戦集会でも、このスローガンが叫ばれ、デモの先頭にはパレスチナの旗が掲げられている。

「9・11」以降、皮肉なことには、パレスチナ民衆の闘いには、正義をかざした「反テロ戦争」の欺瞞性を照らし出す「一つの極」としての役割と、同時に、全世界の抑圧と貧困からの解放を求める民衆の闘いを象徴するシンボリックな存在として「最後の抵抗の砦」「希望の砦」としての役割を与えられたと言えよう。パレスチナ民衆との連帯を創り出す「新たな一歩」をともに踏み出そう!

「オロークの木が泣いている」という言葉に、平和を希求するパレスチナの人たちの心の叫びとそれを踏みにじっているイスラエルの占領に対する憤りが込められ叙情詩のように表現されている。

一方、鶴岡哲氏が指摘するように、「9・11」が起きた01年から、パレスチナに身を運び一歩を踏み出す人が、「世界のあらゆる国から、急速に増え始め」ている。(『パレスチナ国際

市民派遣団・議長府防衛戦日記」シエゼ・ボヴェ、太田出版 解説) 世界中からパレスチナ現地に駆けつけ、「フリー・パレスティーン」「ノー・アパルトヘイト」と呼び、「国際義勇軍」のようにパレスチナの人々と連帯しイスラエルの占領政策を止めようと活動する人々、NGO(民間活動団体)が増え国際連帯のネットワークを生み出している。

欧州を中心に反グローバリズムの旗を掲げ「新しい国際主義」を実践している人々、メキシコの先住民武装組織・サパティスタや移民・失業者・ホームレスなど「排除された人々」との連帯運動に取り組んでいる人々、そして99年WTOに異を唱えたいわゆる「シートルの人々」等、反グローバリズム運動、国際連帯運動を担うミリアント(闘士)にとって、いまや「パレスチナに自由を!」が、闘いの合言葉にさえなっている。イラク攻撃に反対する全世界の反戦集会でも、このスローガンが叫ばれ、デモの先頭にはパレスチナの旗が掲げられている。

「9・11」以降、皮肉なことには、パレスチナ民衆の闘いには、正義をかざした「反テロ戦争」の欺瞞性を照らし出す「一つの極」としての役割と、同時に、全世界の抑圧と貧困からの解放を求める民衆の闘いを象徴するシンボリックな存在として「最後の抵抗の砦」「希望の砦」としての役割を与えられたと言えよう。パレスチナ民衆との連帯を創り出す「新たな一歩」をともに踏み出そう!

「オロークの木が泣いている」という言葉に、平和を希求するパレスチナの人たちの心の叫びとそれを踏みにじっているイスラエルの占領に対する憤りが込められ叙情詩のように表現されている。

一方、鶴岡哲氏が指摘するように、「9・11」が起きた01年から、パレスチナに身を運び一歩を踏み出す人が、「世界のあらゆる国から、急速に増え始め」ている。(『パレスチナ国際

市民派遣団・議長府防衛戦日記」シエゼ・ボヴェ、太田出版 解説) 世界中からパレスチナ現地に駆けつけ、「フリー・パレスティーン」「ノー・アパルトヘイト」と呼び、「国際義勇軍」のようにパレスチナの人々と連帯しイスラエルの占領政策を止めようと活動する人々、NGO(民間活動団体)が増え国際連帯のネットワークを生み出している。

欧州を中心に反グローバリズムの旗を掲げ「新しい国際主義」を実践している人々、メキシコの先住民武装組織・サパティスタや移民・失業者・ホームレスなど「排除された人々」との連帯運動に取り組んでいる人々、そして99年WTOに異を唱えたいわゆる「シートルの人々」等、反グローバリズム運動、国際連帯運動を担うミリアント(闘士)にとって、いまや「パレスチナに自由を!」が、闘いの合言葉にさえなっている。イラク攻撃に反対する全世界の反戦集会でも、このスローガンが叫ばれ、デモの先頭にはパレスチナの旗が掲げられている。

「9・11」以降、皮肉なことには、パレスチナ民衆の闘いには、正義をかざした「反テロ戦争」の欺瞞性を照らし出す「一つの極」としての役割と、同時に、全世界の抑圧と貧困からの解放を求める民衆の闘いを象徴するシンボリックな存在として「最後の抵抗の砦」「希望の砦」としての役割を与えられたと言えよう。パレスチナ民衆との連帯を創り出す「新たな一歩」をともに踏み出そう!

国境を越えたラデー



ラディカルな労働運動の極 韓国民主労総

全泰吉(チョン・テイ)氏の焼身決起32周年に韓国労働組合のナショナルセンター・民主労総が主催する11・10全国労働者大会に、私は、初めて参加したが(日本からは約100名が参加)、その若い労働者のエネルギーにみちた韓国労働運動のダイナミズムに直接触れ、正直圧倒された。

韓国民主労総は、ダニエル・ベンサイドが述べているように、フランスのSU D(連帯・統一・民主労組)、新しい独立左派組、新ラディカル(CUT)、フランスのCUT(労働者統一センター)と並ぶ世界で「よりラディカルな労働運動の極」として三つ挙げられたうちの二つである。まさに、世界的に見ても最も戦闘的な労働運動団体と言えるところである。

プロパガンダ(宣伝活動)、アシテーション(煽動)、オルグ(組織活動)のあらゆる面で、我々が学ぶべき点が多いが、とりわけ労働運動に貫かれている思想・心こそ学ぶべきである。

つまり、焼身決起した全泰吉の遺志を引き継いで闘う、彼の死を決して無駄にしない、彼が自分たちの闘いと心の中に生き続けている、という労働者の胸に迫っている思想・精神というものが確固としてあるということであり、労働運動の思想・精神的原動力が明瞭である点だ。

自分たちの闘いの心、運動思想は、これだ、というものが、「団結と闘争」(タンギョイ・トゥッセン)こそが希望だ、団結して闘えば勝てる、という

自信が伝わってくるのである。そして、自分たちの闘いは、ここから出発した、つまり全泰吉氏の焼身決起が韓国労働運動の原点だ、と自分たちの運動の歴史を語るという点だ。

このように、レイバー・カルチャー、レイバー・ヒストリーというものが、日本のように暗い・硬い・ださしい、ではなく、ダイナミックな運動の中で生まれ育まれているというところに、私は感嘆させられた。実際、3万人が参加したという11・10労働者大会は、20代、30代の青年労働者がほとんどで、40-50代の日本からの訪問団が際立ってしまっただけだ。

民主労総の委員長代行は、「来年(03年)は、民主労総にとって正念場だ。その闘いは大きく二つある。一つは、新自由主義ローバライゼーションとの闘い、もう一つは、反米・反戦の闘いだ。この闘いは、いずれも韓国の労働者だけでは解決されるものではない。これは国際的な闘いの課題だ」と述べた。

また民主労総の若いリーダーの一人は、「これまで民主労総は正規職が中心だったが、今後は非正規職の労働者の組織化に努めていかなければならない。グローバルイゼーションとの闘いにおいては、この間、国際連帯は、まだまだ不十分であった」と語った。

韓国の民主労総は、まだ成長期にあり、今後とも力を増していくに違いない。まさに「変革への渴望」が韓国にはある、そう実感させられた。

「オスロ合意が目指していたものは何か。……(それは)パレスチナがイスラエルに『ほぼ全面依存する』よう強要する内容です。依存によってパレスチナは植民地状態になる。」「パレスチナの現状を見ればわかるように、彼らの方針とは、イスラエルでよく言われているパレスチナ計画に他なりません。パレスチナは南アフリカ共和国のアパルトヘイト暗黒時代に作られた黒人自治区です。クリントンとバラックはこれを手本として、パレスチナ自治区のハンツスタン化を進めました。」

「しかし今、この計画は棚上げにされ、イスラエルはパレスチナ暫定政府の潰滅を選択しようです。」「ハンツスタン制度こそ、……オスロ合意に始まった『平和への道のり』の正体です。そしてイスラエルの現在の政策は、四〇年前に南アフリカで作られた制度よりも、さらに劣悪なものとなりました。」「戦争犯罪に関しては、パレスチナもたいした違いはない。しかも最大の責任はワシントンにあります。……イスラエルは……盟主アメリカが定めた制約のなかで行動してきました。この枠組みから外れたことはほとんどありません。」

「中東政策に限って言えば、第一の要素は世界最大のエネルギー資源を支配することです。アメリカとイスラエルの同盟はこの上に成り立っています。」「イスラエルが『欧米に味方する中東で唯一巨大な勢力』だからです。……つまり、アラブの諸地域に生まれたナショナリズムを(第三世界ならどこにでも)重大な脅威と認めた。これを『共産主義運動』と呼ぶのがならわしでした。」「そのナショナルリズムをイスラエルが粉砕し、アメリカを立派に援助してあげた。こうして同盟関係は続きます。ン連が崩壊した後も、関係は変わりませんでした。……イスラエルは事実上、アメリカの軍事基地です。」「武力と恐怖によって占領状態を維持し、入植地を広げてゆく。そのためにアメリカは援助をつづけています。」

「パレスチナはイスラエルの軍事力によって占領されてきました。三五年目になります。そのなかでパレスチナは生存をかけて抵抗を続けてきた。この奇蹟で残虐な状況を決定づけたのがアメリカのイスラエルに対する軍事・経済援助です。またアメリカは外交によってイスラエルを守り、平和のために政治的着を求め、世界の声をほぼ無視しました。」

イスラエルとパレスチナの抗争に力の均衡などあるはずがない。実に一方的なものです。……この抗争をイスラエルの自衛行為とする見解はあまりにも現実からかけ離れています。歪曲という言葉さえ当てはまりません。パレスチナによるテロ行為は批判されてきました。……テロをいくら糾弾しても、実情は何かとつ変わらません。」

「そうすると今の根本的な問題はどこにあるのか。ワシントンです。広範な国際合意にもつづいて政治解決をイスラエルは拒否しています。ワシントンはそれを頑強に支持する。今回のサウジ和平案でもこの姿勢は変わっていません。」

「こういう誰にでもわかるはずの事実を踏まえ、世間の誤った見方やいっわりを正して議論するの

が必要で、それができないなら議論ははずれになります。核心から外れた議論に巻き込まれないようにするべきです。」「それはアメリカの責任です。私たちは問題に正面から向き合い、取り組まなければなりません。そして、それを他の国の責任にしてはなりません。」「2002年4月2日、『週刊金曜日』7月5日号より)

チョムスキーは、まず93年の「オスロ合意」は、アパルトヘイト体制下のハンツスタン化を進めるものでしかない、と批判し、それが「平和への道のり」の正体だと切り捨てている。

そして、米の中東政策は石油資源の確保であり、この上に米とイスラエルの同盟は成り立っているとして、イスラエルは事実上、米の中東支配の軍事基地だと述べている。

したがって、チョムスキーは、根本的な問題は、ワシントンにあり、イスラエルの占領を終わらせ、パレスチナに平和をもたらすのが、米国の責任だと明確に述べているのである。

まさに「破壊への流れに抗し立ち向かうこと」を訴え続ける反骨の知識人チョムスキーの真骨頂が、パレスチナ問題に関していかに鋭く発揮されていると見える。

ノーム・チョムスキー が語るパレスチナ問題

山谷を反失業・反排除の砦に!

山谷・釜ヶ崎越年・越冬闘争打ち抜き 1・13全国から山谷・玉姫公園へ

排除に抗し仲間の命を守りぬく団結打ちぬく春の闘いを準備しよう

た越冬対策(1~3月期の2週間程・なぎさ寮を廃止する)という暴挙を決定した。さらに山谷対策の越冬期・なぎさ寮撤廃も、ふるい落とす・足切りが強まること予想される。まさに行政の越冬・越冬対策から引き出された多くの仲間が、路上に放り出されるといふ情勢である。さらに、少年達による襲撃・虐殺が各地で相次いだ。弱者を踏みにじり、切り捨てる社会構造が、排斥と襲撃を生み出しているのだ。

この中で闘われる山谷越年・越冬闘争の位置は、まず何よりも「ホームレス特措法」下の自治体の後退に抗して、排除された層と

結びつき、野垂れ死にから防衛してゆく取り組みとしてある。

このわけ、山谷と路上枠の分断構造を打ち破り、山谷センター前を吹き出し越年闘争拠点(今回は12月28日~1月6日)朝までの長期闘争となる)として、仲間の命をつなぐ炊き出しを仲間の手で担いながら、ここから上野・隅田川・浅草のテント層・移動層と結びつへへ、パトロール・寄り合い・医療相談(この一年で月例化が定着した)・もちつき・文化行事などを展開しながら排除・排斥を許さない広範な闘いへとつなげていくことだ。

山谷闘争では、この秋より隅田川・上野の仲間を中心にアンケートを実施した。この試みは、行政サイドの実態調査とは一線を画し、野宿労働者の多くが空缶収集など乏しい収入で、どれだけ厳しい生活を強いられるのかを行政に突きつけ、公的労務事業の拡大(東京都の高齢者特別労務事業など)をこじ開けてゆく一環として取り組まれた。一方で、自立支援センター手配による悪質業者・ミツエ建設に対する争議は、東京都の「路上生活者対策」の実態を浮き彫りにした。この地帯を越年・越冬闘争を通じて、就労や福祉をめぐる新たな大衆行動へのステップとしていく。

反失業・反排除の闘いを反グローバルリズムの国際連帯運動の前進へ

越年・越冬闘争は同時に山谷を反失業・反グローバルリズム運動の拠点として打ちぬき、発展させる闘いでもある。00年・01年のフランス社会運動との交流、01年・02年にかけての韓国民主労総との交流は、底辺・下層から排除・排斥に抗し、新自由主義グローバル化・シオンと対決する闘いを創りだす上で、大きな意義があった。まさに、おのれの強いられた存在状況を武器に団結し闘う以外にないものも持たない存在が「共同の歴史を作り、その行動が歴史の中に根を張り、意味を持つ」(ジョセフ・ボヘ)こそ労働運動の原動力と真価があることだ。1・13山谷この9月には、パレスチナ・玉姫公園へ(藤川)

02-03 山谷越年・越冬闘争
12月28日(土)~1月6日(月)朝
城北福祉センター前
カンパ・支援の集中を!

佐藤さん虐殺18力年弾劾!
山岡さん虐殺17力年弾劾!
日雇全協反失業
総決起集会
1月13日・午前10時・山谷玉姫公園
(集会後デモ)

ナの仲間の山谷訪問・交流の場が実現し、寄り合いの場でのビデオ上映も行われパレスチナ民衆の抵抗運動の息吹が身近なものとして伝わった。10月のジョセフ・ボヘの来日講演にも山谷や釜ヶ崎から多くの日雇・野宿労働者が参加し、その闘いに注目した。また11月の韓国訪問の報告・学習会も山谷労働者福祉会館で行われ(11月30日)、韓国労働運動の到達地帯と交流・連帯の意義を共有することができた。こうした取り組みを越年闘争の場においても、ビデオ上映会などで豊富化し、反排除・反失業・反グローバルリズム国際連帯運動を山谷から創りだす一歩にしていくこと。

「公共地の適正化」
「公共」概念転換を

「公共」概念転換を
「公共」概念転換を

「公共」概念転換を
「公共」概念転換を

「公共」概念転換を
「公共」概念転換を

「公共」概念転換を
「公共」概念転換を

「公共」概念転換を
「公共」概念転換を

「公共」概念転換を
「公共」概念転換を

「公共」概念転換を
「公共」概念転換を

「公共」概念転換を
「公共」概念転換を

「公共」概念転換を
「公共」概念転換を

「公共」概念転換を
「公共」概念転換を

「公共」概念転換を
「公共」概念転換を

「公共」概念転換を
「公共」概念転換を

「公共」概念転換を
「公共」概念転換を

「公共」概念転換を
「公共」概念転換を

「公共」概念転換を
「公共」概念転換を

「公共」概念転換を
「公共」概念転換を

「公共」概念転換を
「公共」概念転換を

「公共」概念転換を
「公共」概念転換を

「公共」概念転換を
「公共」概念転換を

「公共」概念転換を
「公共」概念転換を

「公共」概念転換を
「公共」概念転換を

「公共」概念転換を
「公共」概念転換を

「公共」概念転換を
「公共」概念転換を

「公共」概念転換を
「公共」概念転換を

「公共」概念転換を
「公共」概念転換を

「公共」概念転換を
「公共」概念転換を

「公共」概念転換を
「公共」概念転換を

「公共」概念転換を
「公共」概念転換を

「公共」概念転換を
「公共」概念転換を

「公共」概念転換を
「公共」概念転換を

「公共」概念転換を
「公共」概念転換を

「公共」概念転換を
「公共」概念転換を

「公共」概念転換を
「公共」概念転換を

「公共」概念転換を
「公共」概念転換を

「公共」概念転換を
「公共」概念転換を

「公共」概念転換を
「公共」概念転換を

「公共」概念転換を
「公共」概念転換を

「公共」概念転換を
「公共」概念転換を

「公共」概念転換を
「公共」概念転換を

「公共」概念転換を
「公共」概念転換を

「公共」概念転換を
「公共」概念転換を

「公共」概念転換を
「公共」概念転換を

「公共」概念転換を
「公共」概念転換を

「公共」概念転換を
「公共」概念転換を

「公共」概念転換を
「公共」概念転換を

「公共」概念転換を
「公共」概念転換を

「公共」概念転換を
「公共」概念転換を

「公共」概念転換を
「公共」概念転換を

「公共」概念転換を
「公共」概念転換を

「公共」概念転換を
「公共」概念転換を

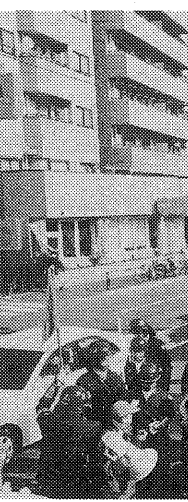
「公共」概念転換を
「公共」概念転換を

「公共」概念転換を
「公共」概念転換を

「公共」概念転換を
「公共」概念転換を

「公共」概念転換を
「公共」概念転換を

「公共」概念転換を
「公共」概念転換を



02年1・14山谷現地闘争

三里塚

反対同盟と連帯して闘おう

三里塚から戦争と有事立法を止め！ 3・30全国闘争へ決起を

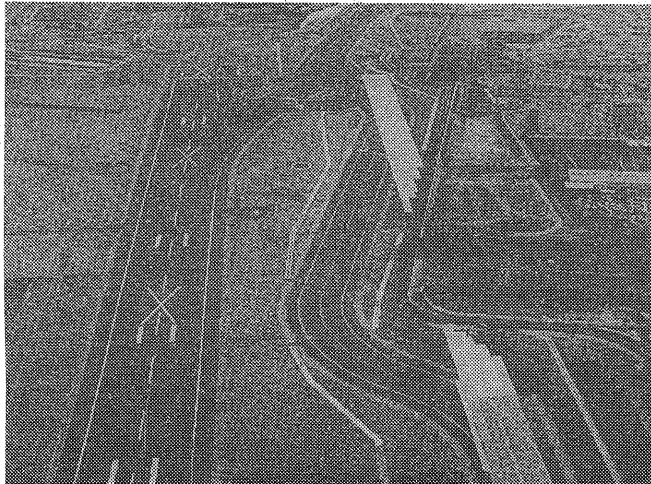
2002年の三里塚は、暫定滑走路開港攻撃への攻防の年であった。平行滑走路完成による完全空港化の目論みが破綻した政府・空港公団は、暫定滑走路の開港を強行（4月18日）することで敷地内農民の切り崩し、追い出しを図ったが、反対同盟は敷地内を先頭に一丸となって闘い抜いた。

我々は、反対同盟農民の37年の闘魂に感銘を深く、労働者全国実行委を結成し、山谷・釜ヶ崎の仲間を先頭に、4月・10月の全国闘争への決起を勝ち取った。この地を打ち固め、反対同盟の年頭アピールを受け止め、空港開港まで反対同盟とともに闘う決意である。



12月1日には暫定滑走路の誘導路上で旅客機同士が接触するという重大事故が発生した。この事故は紛れもなく、暫定滑走路の構造的欠陥によるものだ。そもそも当初から「へ」の字に曲がった誘導路の問題が指摘されていたにもかかわらず、無理を承知の開港がこの結果をもたらしたのである。暫定滑走路強行が安全無視の危険な企てであったことが世界中に暴露された。大惨事を誘発する危険性は消えてはいない。生活破壊と人命軽視の滑走路を今こそ閉鎖に追い込もう。

2003年は、1・12の新年デモと団結旗開きをもって闘いがスタートする。イラクへの侵略戦争と有事立法を三里塚から撃て！ 3・30全国闘争へ全力で決起しよう！



▲欠陥をさらけだした暫定滑走路「へ」の字に曲がった誘導路上で旅客機同士の接触事故が起きた。

▲10・14労働者全国実行委の隊列



反対同盟事務局長 北原 鉦治

ひるまずに闘う反対同盟は 国家権力を追い詰めてきた

反対同盟は、2002年 開港してから市東さん宅を勝利的に闘い抜き、飛行機から直接排気ガスが吹付けられる問題では、反対同盟一丸となって、成田市空対課を迫り、フェンスの先頭に立ち、有事立法に反対します。37年間、空港反対と戦争反対を一体のものとして闘ってきた反対同盟の力は、今もなお空港完成を阻んでいます。

この力を全国に呼びかけ、反対、有事立法・改憲攻撃を粉砕しよう。

2003年を反対同盟と共に闘い、勝利の年にしましょう。

理不尽な暫定滑走路は、潰すしかありません。空港見返り事業の芝山鉄道も開業わずか大きな赤字を抱えていることがはっきりしてきました。空港民営化で周辺対策は切り捨てられていくであろうことも誰もが予想し、周辺市町村は今のように金を取るよう必死です。空港との共存共栄の幻想は完璧に崩れ去っています。



敷地内天神峰 市東 孝雄

敷地内からの叩き出し攻撃に絶対負けずに頑張り抜く

新しい年を迎え、一層の決意で空港反対を闘っていきたく思います。

4月の暫定滑走路の開港以降、自宅のすぐそばを航空機が自走し、離陸、着陸の接触事故もあり暫定滑走路の危険性が一層明らかになりました。

民間があり、生活していることを承知しながら無理やりつくった滑走路の矛盾が、誰の目にもはっきりしています。

成田の民営化が決定し、また、近距離便を羽田に移すことも決まり、暫定滑走路の未来はありません。農

民叩き出しのための暫定滑走路はたまために閉鎖すべきです。

そして今、有事立法を廃案に追い込むような闘いが必要です。反対同盟は空港反対と戦争反対をひとつのものとして闘っています。

有事立法は成田空港を始め全てを戦争に動員しようとする法律です。また、全国の住民運動をつぶす攻撃です。



敷地内東峰 萩原 進

闘いの意思を全国の皆さんと共有して勝利を勝ち取る

昨年の闘いは、4月の暫定滑走路開港をめぐる攻防が焦点でした。これは空港反対運動をつぶすことを目的とした攻撃でした。暫定滑走路建設発表以降、軒先までの工事をすすめて、開港するぞという叫びの中、な

空港公団は昨年いっばいで暫定から二千五百の見直しをうけ完全空港化の方針が立てられると思っていた。しかし、逆にだれも移転せず、暫定開港への怒りをかき立てている。騒音の被害は並大抵ではなく、我々だけでなく北や南の周辺住民からも被害の大きさに怒り、反対運動への声援が生まれている。

最近の接触事故を見ても我々の主張してきた、暫定の危険性、安全性を切り捨てたでたらめなものだという事実を示している。航空会社から迅速な運行を要求されても改善しようがないのが事実だ。今のまま安全を確保しようとするばかりで運行に時間がかかるのは間違いない。

騒音、排ガス、舞に囲ま

ここにきて、民営化の方針が決定した。国の出資金を引き上げ問題に対し、地元は引き上げに反対して500億を地元対策に使えと主張してけられてる。今後、住民対策として空港から見返りの金を取れなくな

2003年新年デモと旗開き
時／1月12日(日)
●新年デモ 午前10時 市東さん方面
●団結旗開き 午後1時 芝仙会館
主催／三里塚芝山連合空港反対同盟

戦争反対・有事法案阻止の大量行動を!



パレスチナの旗が翻るワシントン反戦デモ



5・19沖縄「復帰」30周年式典弾劾デモ

1.18

イラク攻撃反対!

国際反戦行動

WORLD PEACE NOW

午後1時・日比谷野外音楽堂

新たな治安法攻撃の要... 共謀罪の新設阻止へ... 12月21日「戦争と治安・管理」を考ふるシンポジウムが成功

12月21日、「戦争と治安・管理」を考ふるシンポジウムが成功... 共謀罪の新設阻止へ

冬のキャンパを訴える... 共産主義者同盟(蜂起派)

イギリス艦隊派遺弾劾! 12月16日、小泉政権は海上自衛隊のイギリス艦のインド洋派遣を強行した。当日は早朝より横須賀の臨海公園で緊急の抗議行動が取りまとめられ、反戦闘争実も結集し、目前で出航せんとするイギリス艦「きりしま」に対し、怒りみなぎる弾劾のシュプレヒコールを叩きつけた。

出航前の式典の場では、自衛隊司令官の勝山海将が、「国際アフリズムに対し、わが国が国際社会とともに毅然とした態度で立ち向かう決意を示すものである」と檄を飛ばした。文字通り、イギリス艦の派遣こそ憲法違反の集団的自衛権への本格的踏み込みであり、米軍のイラク攻撃と自衛隊の支援行動の一体化を示すものにはかならない。

沖縄 名護新基地建設強行阻止 沖縄民衆の怒りに連帯を

日本「復帰」30年を迎え、闘争を闘った。さらに10月22日の沖縄は、5・18の闘いが取り組まれ、我々は反戦闘争実の隊列で現地へ上へり基地建設に「NO」

代々木公園(20団体労組主)の広範なデモが実現したの... 韓国におおいては、米軍車両による女子中学生の横暴を許さない民衆の憤激とともに、反戦運動の気運がこれまでになく高まっている。きたる1月18日(海岸戦争勃発の日)に、米国内で100万規模の大規模な抗議行動が準備されている。この日を、03年の国際連帯運動のスタートにも上り約30万人、ソウル市内

しかも、戦争前にこれだけ... 12月21日「戦争と治安・管理」を考ふるシンポジウムが成功

反彈圧 「共謀罪」新設阻止へ

新たな治安法攻撃の要... 共謀罪の新設阻止へ

12月21日「戦争と治安・管理」を考ふるシンポジウムが成功... 共謀罪の新設阻止へ

12月21日「戦争と治安・管理」を考ふるシンポジウムが成功... 共謀罪の新設阻止へ

冬のキャンパを訴える

冬のキャンパを訴える... 共産主義者同盟(蜂起派)